



50年間の挑戦、50年目からの挑戦。

eisuは、2015年をもって創立50周年を迎えます。こうした節目を迎えることができたのも、ひとえに皆さまのご支援・ご厚情の賜物です。心より御礼を申し上げます。

現在eisuは、東京都に11校舎、静岡県に1校舎、愛知県に6校舎、発祥の地三重県に55校舎、そして関連施設18ヶ所とお陰さまで順調に展開しております。1965年に塾、鈴鹿英数学院を創立した当初は、私の身一つで、ただ教育への情熱だけを武器に子供たちに向かい合う毎日でした。そんな試行錯誤の日々から私は、人間と人間が触れ合う教育という仕事の面白さ、素晴らしさを心から感じるとともに、私教育が果たすべき役割について確信を得ました。それは、子供たち一人ひとりの「個」にフォーカスし、そのオンリー・ワンの可能性を開花させることです。

公教育には国民に一定の教育水準を確保するという役割があります。しかし子供たちにはそれぞれ個性の差があります。自分の個性にあった教育に出会った時、子供たちは本来の輝きを見せ、学習意欲を向上させます。そうすれば子供たちは結果を出していきます。子供たち一人ひとりの個性にフォーカスした指導「個」への対応、これこそ私教育の担うべき役割です。そして「教える」側の立場に立って知識を詰めこむのではなく、「学ぶ」側の視線で成長意欲を刺激し、支援するのが塾の姿です。素直な私塾は確信しました。この信念のもと、私は学力の向上、志望校への受験の成功はもちろん、その後の人生の財産となるような優れた教育を、幼・小・中・高一貫指導体制で子供たちに提供することをeisuの使命とし、子供たちの成長意欲を支援するために、これからも様々なチャレンジを続けてまいります。

50周年を前にした昨年12月には、eisuが50年の歴史で追求してきた、子供たちが「主体的に」学ぶことができる「自立学習スタイル」の理念が結集した学舎、「eisu南麻布ヒルズ」を新設しました。この学舎では、教育界で最も注目を集める5つのプレミアムコース「デビッド・セイン英語ジム」「バスル道場 NEW」「NEWエドワーズ」「東進中学NET」「東進衛星予備校」を中心に据え、優れた「ヒューマンサポート」と「ICT」をハイブリッドして「主体的に」学ぶ子供たちを育成します。既存校舎においても、社員一人ひとりがeisuの追求すべき理念と担うべき使命について真摯に考え、授業やサービスの向上を図るために自発的に研鑽に努めています。

ここ数年、日本の社会全体が大きな節目を迎えつつあるように感じます。教育に限って言っても、大学受験制度の抜本的変革や英語をはじめとするグローバル対応教育の本格化など、塾の社会的役割は大きく変わっていくでしょう。一方、どんな社会状況に直面しようとも、自分の生活を自力で築き、自分の幸せを自分でつかむことのできる大人に育ってほしいという教育に対する万古不易のニーズは、ますます切実なものになっていると感じます。eisuはもちろん私自身も、50年の歴史に安住することなく、皆さまのお気持ちに応えられる塾であるよう、今後も成長と前進を続ける所存です。関係の皆さまには今後もご指導、ご鞭撻をお願いします次第です。これからもeisuをどうぞよろしくお祈り申し上げます。



ディビッド・セイン英語ジム主宰
バスル道場「eドワーズ」主宰
全小・中・高生学カレッジ主宰
eisu group 代表 山本 千秋

社会貢献ができる自立した人財を育てる。それがeisuの目指す教育です。

1 自立。
—それが今の時代に求められています。

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう。」キャシー・デビッドソン氏が2011年8月のニューヨーク・タイムズ紙に語ったいわゆる「デビッドソン予測」の内容は、今や国・地域を問わず、広く社会的関心を集めるテーマになっています。確かに現在の社会情勢は変動が著しく、「今までこうだったから、今後ものまでよい」というのは通用しなくなっています。またこうした情勢に対応するために、大学入試制度を始めとして、日本の教育界・教育制度もここ数年のうちに激変します。そんな中で育っている今の子供たちは、社会全体の激しい変動に伴い教育自体も変動しようとしている、いわば変動の過渡期の中只中に生きていくわけです。これを思うと、今までの常識の延長・与えられた枠組み・目先の課題に頼って努力しているだけでは、子供たちは社会の中に出たときに道に迷ってしまうのではないのでしょうか。この先行き不透明な時代に、自分の生活を自力で築き、自分の幸せを自分でつかむことができる、そうした主体性と実力を持つことを、私は「自立」と呼んでいます。時代の激変に惑わされ道に迷わないようにするためには、人は自立している必要があります。子供たちの自立はいつの時代も大人たちの一番の願いでしたが、それにしては今ほど自立が必須のものとして求められる時代はないように思います。



4 受験を通して人生を学ぶ。
—それが私たちeisuの指導方針です。

eisuは進学塾であり、予備校です。eisuがすべき仕事の第一は、何と云っても子供たちに学力を身につけさせ、成績を向上させ、志望校合格に導くことです。ですから私たちeisuは、全員が徹底的に「合格実績」にこだわって仕事をしています。でも、eisuが合格実績にこだわる理由は、たとえば「学歴が全てだ」「いい学校にさえ行けばそれでいい」と思っているからではありません。人生には自分を厳しく試される場が何度も訪れます。そんなとき、受験で必死に努力した経験が必ず役に立つと思っているからです。受験は厳しい勝負の場ですが、正しい努力をすればそれに応じた結果を得られるフェアな世界です。ここで必死に努力したことは、直接的な結果を越えて、計り知れないフィードバックを子供たちにもたらします。私たちeisuは、それを長年の受験指導の経験でよく知っています。「合格」という結果に厳しくこだわり、必死に努力する経験をする中で、その後の試験の場に立ち向かえるマインドが身につきます。そして本当の意味で立ち立できる、つまり自立できる人間になります。したがって受験は、人が自立を学ぶための絶好のチャンスなのです。また、人生において大切なことは他にもあります。たとえば目標をこまめに具体化することの大切さ。すべきことに優先順位をつけることの大切さ。自分の弱点に向き合うことの大切さ。生活のリズムを整えることの大切さ。自分を支えてくれる周囲の人たちの大切さ。苦業を分かち合う仲間との大切さ……。そして、目標を達成したときの喜びの大きき。その喜びを、自分を支えてくれた人たちと分かち合うことの素晴らしさ！こうした濃縮した人生経験を得るためには、受験はうってつけの機会です。受験で真剣に結果にこだわるからこそ、人生で大切なことが集中的に学べるのです。これがeisuが合格実績にこだわる理由であり、私たちeisuの指導方針です。



2 「志」を持つ。可能性を信じる。
—それが教育の出発点です。

さて、個人が自立していくためにまず大切なこと、それは「志」を持つことです。では「志」とは何でしょうか。「志」とは、「夢」のように期限も定めず何となく「こうありたい」と思い描くことではありません。いったん達成したらそこで終了する「目標」とも異なります。私たちeisuの考える「志」とは、思い描いたことのある時点で実現しようという心と決意、それを必ず現実化していくこととする強い意志の力のことです。「志」は三つの視点でとらえることができます。一つめは自分自身の内面から湧き出でる。「自分はこうしたい」という欲求です。二つめは社会や他人との関わりから生まれるもので、「人のために役に立ちたい!」という利他の心です。三つめは自分の能力への自信からくる、「自分にはこれができる!」という前向きな意欲です。「志」はこれら三つの心のありさまが重なったところに生まれます。この重なりが大きければ大きいほど、その「志」は強く大きなパワーを発揮します。昔も今もこれからの、偉人たちの行動に共通するのはこの「志」の強さです。「志」こそ、自分を成長させ、社会を改善し、世界を変革するパワーの源であり、人生を豊かにするカギなのです。でもどんな「志」も、生まれ始めはかよわいものです。周囲の心ない言葉や態度によって、深く傷ついたり挫けたりしがちです。「志」を大きく育てるためには、子供たちの心を包み込む愛情と信頼、そして子供たちが持つ可能性の全面的な肯定が必要です。ですから、私たちeisuの教育の出発点です。子供たちの持つ無限の可能性をまずは信じてあげることなのです。



たくさんの人たちの想いに支えられている。それがeisuの一番の財産です。

01 昔は私が、今は子供たちがeisuでお世話になっています。

山中 猛成さま & お子さまたち / eisu OB・保護者さま・在籍生
小学特講で梅木先生にお世話になりました。eisuはすごく優秀な子が集まっている。みんなすごいなあ!というのが当時の思い出です。eisuはこれからはずっと、大切なこと楽しく学べる場であってほしいと願っています。[猛成さま]

03 志望大学に合格できた事実は今なお私の心の糧です。

小野 博充さま / eisu OB
故郷の尾鷲を出、親元を離れて高校に通い、がんばって手にした志望大学合格。その経験を通して「努力し続ければ必ず良い成果が得られる」という自信が、苦しいことにも立ち向かえる力が身につきました。今も充実した毎日を送っています。

02 山本千秋先生に教わりました。とてもアットホームな塾ですね。

寺田 房純さま & 真穂さま親子 / eisu OB・OG
娘が10時間特講から帰ってきたとき、「自分も疲れたけど、先生の方がもっと疲れている」と言っていたことがとても印象に残っています。親子そろってeisuでお世話になりました。感謝しています。[房純さま]

04 私にとってeisuは第二の「家」のような場所でした。

山本 千秋さま / eisu OG
小学校入学前からeisuでお世話になっていた私。ずっと勉強を継続できたのは、eisuの雰囲気に乗せられ、eisuの先生たちにそれとなく導かれていたからです。eisuに支えられて今の私がある、というのが実感です。



01 山中 猛成さま & お子さまたち
先頃、ご自身の医院を開業。お子さまは学カレッジ賞受賞経験あり。



02 寺田 房純さま & 真穂さま親子
娘の真穂さまには卒業後も講師としてお手伝いいただいています。



03 小野 博充さま
一橋大学卒業後、2014年三菱商事に入社。一人前の社会人を目指して奮闘されています。



04 山本 華奈子さま
三重大学医学部進学。相手の気持ちがわかる医師を目指して勉強中です。

05 故郷である三重県全体の教育水準を上げたいのです。

細川 恭平 / 高田6年制コースPrincipal
中学・大学両方で合格できたのは、小4から9年間、私を鍛えてくれたeisuの先生のおかげだと思っています。eisuに恩返ししたい、そして後輩たちを少しでも助けたいという思いで教壇に立っています。

07 子供が自ら学び、成長する。それを促すのが私のミッション。

谷崎 生磨 / eisu高校部「東京ブロック長」(南麻布ヒルズ東進担任)
私は最難関大学の受験指導を専門としていますが、「志」を持ち、自分でテーマを決め、自発的に動くことが成功のカギだという方針で指導しています。自分の仕事でもそれを心がけています。そんな自分を認めてくれるeisuに感謝しています。

06 「共」に「育」つ。それが教育。子供と共に成長するのが喜び。

山下 絵梨佳 / eisu高校部「桑名中央町校」Principal
Principalという責任ある仕事を任せられ、生徒指導と校舎マネジメントの仕事にやりがいを感じています。私を必要としてくれる生徒がいる—そう思うと、「自分の最善を尽くしたい」という気持ちが心に湧いてきます。

08 eisuに生かされてきた人生。私は本当に幸せだと思います。

梅木 裕造 / 元代表代行・特別顧問
私が入社してから、eisuも、教育の環境も本当に大きな変化を経験しましたが、これからはさらに激しく厳しい変化を予想します。でも私たちが求めてきた教育の本質は不変です。これからも愛とともに子供たちと向き合っていきます。



05 細川 恭平
高田高校・東京大学卒業。今は再びeisuを舞台に「志」を邁進中。



06 山下 絵梨佳
eisuには小6から通学。今はeisu女性社員の牽引役の一人。



07 谷崎 生磨
40年通学eisuに勤め、「教える王様」を、全日本学生チャンピオン獲得。



08 梅木 裕造
40年通学eisuに勤め、「教える王様」を、全日本学生チャンピオン獲得。

3 社会貢献ができる。正しい努力の順序を実行できる。

—それが子供たちに身につけてほしい能力です。

個人の自立を考えるうえで重要なことはまだあります。個人の自立は、「社会貢献」とセットになっていることが絶対に必要です。社会貢献とは、人々の生活を豊かにし、他者に幸せをもたらす活動することです。社会貢献をして初めて、人は社会や他者から評価され、その対価として信頼や尊敬、愛情などの精神的Valueや、生活の糧などの物質的Valueを得ることができます。つまり、自立した生活のできる一人前の大人になれるのです。また、社会貢献を通じて自立するためには様々な能力が必要になります。たとえば「成功のStrategy(戦略)」を実行できることは、そんな能力の一つです。「成功のStrategy」とは、「志」を実現するために具体的な目標を設定し、それを達成していく、正しい努力の順序のことを言います。正しい努力によって確かな成果を得、その経験の積み重ねから得た自信を自立へとつなげていく。このプロセスを自分でやり切る力は、生きていくのに絶対必要な素養です。社会貢献できる。「成功のStrategy」を実行できる。そういう能力は自然に身につくものではありません。それは教育を通じて身につけるべきものです。私たちeisuが子供たちに身につけてほしいと考えているものは、そうした能力です。

受験を通してそのような人財を育成する教育を私たちeisuはさらに追求していきます。



eisu group 最高執行責任者(COO) 伊藤 奈緒